

下野市公民館運営審議会 議事録 (要旨)

審議会名等 令和6年度第3回公民館運営審議会
日 時 令和6年10月29日(火) 午後1時30分～15時30分
場 所 石橋公民館 会議室4
委 員 出席者 中川 賢一、菊地 高夫、加瀬 裕美、青木 正徳、
山中 幸子、市村 栄美子、小林 溶子、小林 直子、
鈴井 祐孝、田中 志保、早瀬 純則
欠席者 板垣 博史、藤沼 清貴、長 美智子、北村 優子

教育委員会 教育長 石崎 雅也
石橋公民館長 山内 隆匡
国分寺公民館長 近藤 善昭
南河内公民館長 齋藤 光利
南河内東公民館長 大島 浩司
生涯学習推進グループ 課長補佐 猪瀬 貴之

公開・非公開の別 (公開 ・ 一部公開 ・ 非公開)

傍聴人 0人

報道機関 0人

議事録(要旨) 作成年月日 令和6年10月31日

- 1 開 会 南河内東公民館長 大島 浩司
- 2 委員長あいさつ 中川 賢一
- 3 教育長あいさつ 石崎 雅也
- 4 議 事
 - (1) 令和6年度講座受講状況について (資料1)
 - (2) 令和6年度公民館講座中間報告について (資料2)
- 5 報告事項
 - (1) 南河内東公民館に関する
吉田地区コミュニティ推進協議会からの要望について
 - (2) 生涯学習情報センターの機能移転について
 - (3) 公民館の第三日曜日開館について
- 6 その他
 - (1) 公民館まつりについて
 - (2) 第4回公民館運営審議会について
- 7 閉 会

4 議 事

(1) 令和6年度講座受講状況について

中川委員長	審議事項 議事(1)「令和6年度公民館講座受講状況について」審議する。
事務局	事務局からの説明を求める。 議事(1)について 令和6年度講座受講状況について事前質問を踏まえ、幹事館が説明。 定員数を超えている講座については、各館の判断(講師への対応、会場の変更等)で可能な限り、受け入れるよう対応している。詳しくは中間報告にて説明する。
中川委員長	個々の講座については、中間報告で伺うとし、次の議事に進みたい。

(2) 令和6年度公民館講座中間報告について

中川委員長	審議事項 議事(2)「令和6年度公民館講座中間報告について」審議する。
事務局	事務局からの説明を求める。 議事(2)について 令和6年度公民館講座中間報告について各館で特筆すべき講座、事例を説明。続いて委員からの意見質問について事務局から回答する。 ・国分寺公民館 「家庭教育講座」では子育て世代の悩みやストレス緩和・軽減を目的に開催した結果、受講者の9割ほどの方に満足頂いた。 「青少年教育講座」は休日を中心に実施した。特に、夏休みの課題解決に向け、絵画を実施し、多くの受講者が参加した。 「セカンドステージ支援講座」の『メンズクッキング』は、出席率9割以上であり、和気あいあいと料理を作られていた。 「まちづくり入門講座」の『「ふくべ」を知ろう』は、作品を公民館まつり等で展示することが受講者の制作意欲の励みとなった。 「成人講座」の『在宅医療という選択肢』は、在宅医療の現状を確認できた。 「高齢者講座」は年間及び後期講座であるが、多くの方の受講希望者を受け入れられるよう対応している。 ・石橋公民館 「家庭教育講座」は、受講者が少なくとも実施すべきものと考えている。 「青少年教育講座」の『こどもクラブ1ちびっこ料理教室』は定員をオーバーしているが、調理室の制約があるため、抽選となった。 「まちづくり入門講座」の『しもつけ花いっぱい講座：ガーデニング実践』は、館前の花壇を中心に実施している。また、受講者が少ない講座については、友達に声をかけてもらうよう受講生にお願いしている。 「成人講座」は定員を大幅に超えているものがある。特に体づくりの講座は4倍ほどの受講希望者があり、4コマを2コマずつとし、2グループに分け、倍の受講者を受け入れた。 「高齢者講座」も定員を超える希望者があった。

・南河内公民館

「家庭教育講座」の『親子で楽習』は定員を超える希望者があったが、回を重ねるごとに受講者が減る状況であった。なお、3コマ目は栃木県立博物館の移動講座とタイアップし、「骨からわかる動物の暮らし」を実施、4コマ目の「ドローン」は県の移動講座とタイアップしたものであり、市外の子どもたちも参加した。ドローンの使用の注意等を聞いたのち、大ホールでは3コースに分かれ、実際に操作を体験し、201会議室ではスクリーン（野外映像）に映し出されるドローンの操縦を行った。

「青少年教育講座」は毎年、子供向けに近い内容の講座絵を行っているが、年度ごとに子どもたちの興味の度合いが異なり、定員を下回るものがある。

「セカンドステージ支援講座」の『つながるスマホ講座』は、3コマをNPO法人青二才に講師をお願いした。受講希望者が多く、対応できる人数が限られているため、抽選となった。なお、これにつながるものとして、急遽1コマを追加し、JR東日本による『モバイルスイカ』の講座を実施した。

「成人講座」は、歴史関係の講座と健康関係の講座に定員を超える希望者があった。特に『健康と病気』は定員を大幅に超えるものであり、自治医大講師3名を迎えて実施する。倍近い希望者があったため、201会議室からホールに会場を変更して、全員を受け入れている。

「高齢者講座」の『ゆうがお大学』では、2コマ目のデジタル化の現状、4コマ目の危険予測シミュレーションの体験がよかった。

・南河内東公民館

「青少年教育講座」の親子で学ぼうでは、障がい者への理解を深めようとして実施したが、受講者は少なく、子供たちの関心を集めることの難しさを感じた。

「まちづくり入門講座」の『みんなの防災』の2コマ目は、「高齢者講座」の『吉田シニア大学』と合同で実施した。東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部によるもので、下野新聞の記事にもなったが、生の声が聞けたことは大変有意義であった。

「成人講座」は異文化に触れようと二胡の演奏者を講師とし、『二胡を奏でよう』を実施した。講座終了後に、二胡の自主サークルが立ち上がった。

定員オーバーになった講座の抽選方法はどのようにしているのか。

第1の前提は市民優先、のちに抽選となる。また、各館により状況は違うが、会場の都合や講師との相談により、多くの人を受け入れられよう対応している。

ただし、工作や料理等の講座は、使用施設の規模や講師が見られる受講生の人数も限られることから、すべての希望者を受け入れられないため、抽選となる。

多くの受講希望者がある講座は、次年度も実施を計画し、幅広く多くの人を受け入れられるよう実施する場合もある。

委員再質問
菊地委員

事務局

小林(溶)委員	<p>国分寺公民館の青少年教育講座の『音楽いかがですか?』の成果欄の報告で、子どもたちが今どのようにして音楽に触れているか（YouTubeで知る）がわかったので、このように書いてもらえることはよかった。</p> <p>石橋公民館のストレッチの講座は、受講希望者が多かったことから全4回コースを全2回コースに分けたとのことで、物足りなかったとの意見もあったようだが、落選した人には申し訳ないが、多くの人を受け入れたことは、それなりによかったのではないか。</p> <p>南河内東公民館の防災の講座の『みんなの防災』は、成果欄の報告で段ボールベットの組み立てがあったようだが、それならば自分も参加してみたかった気持ちがあるので、どのようなことをやるのかをエールに記載してほしい。</p> <p>南河内公民館の「ガッテン!科学の芽」などはもっと受け入れられなかったのか。</p>
事務局	<p>先ほども述べたが、講師が指導しながらの工作などの講座には指導できる人数に限りがあり、受講希望者が多くなったからと言って、講師を増やす対応はできない。座学であれば、会場さえ対応できれば全てを受け入れられる可能性が出てくる。ただし、この対応が可能な公民館は、部屋数や広い部屋がある国分寺及び南河内公民館に限られる。</p> <p>また、ヨガ等の講座は床の素材等も加味するため、定員増は難しい。</p>
鈴木委員	<p>私は講師として自然観察会に参加しており、講師の立場から意見をすると、やはり1人で見られる人数は限られるので、人数制限はやむを得ない。公民館としては心配りをしながら対応していると思う。</p>
小林(溶)委員	<p>1年目の指導員が1年で異動することがあったが、それは指導員が企画した講座を自ら体験できないことになり、そのような異動はしないでほしい。</p>
事務局	<p>確かに、新任1年での異動は講座企画、講座実施の経験が遅れることなどからしない方が望ましいが、指導員の新規採用に伴い、再任・新任の指導員の兼ね合いや新館長の配置等により、公民館を運営、管理していくうえで、やむを得ない状況が出てくる。</p>
加瀬委員	<p>講座に参加する機会がなかった者としては、資料を読み、報告を聞くとよくわかるが、エールだけだとわかりにくい状況である。料理に関していうと、子どもの料理など多くの講座があるが、もっと内容がわかりやすい情報提供の方法を考えてほしい。</p>
青木委員	<p>今年度の講座申込締切は前期が4月19日、後期が7月31日であるが、定員に満たない講座はどのように対応しているのか。</p>

事務局	<p>講座によっては、定員をオーバーするものがあり、講師、会場等の調整があるため、締め切りを設けている。ただし、定員に満たないものは、チラシ等を作成し、随時受付をしている。また、個別に追加募集をしている。なお、家庭教育講座、青少年教育講座では幼稚園、学校等にも配布依頼をしている。</p>
山中委員	<p>講座に参加して、楽しかったが、もっとPRをしてほしい。何か行っていることはないのか。</p>
中川委員長	<p>各公民館でもキャッチフレーズ（講座タイトル等）を考え、対応していると思うが、事務局としてどうか。</p>
事務局	<p>たしかに、毎年、新たな受講者を集めていきたいと考えている。各講座の初回のあいさつでは、受講者に対し、知り合いにも声をかけてもらうなど、新たな受講者の掘り起こしをしている。ただし、例年、ほぼ同じ方が受講している現状がある。このことは定年延長も影響があると考えている。</p> <p>今後、できるかぎり、市民のニーズに応えられる講座となるように、情報収集に力を入れたい。</p> <p>また、もう少し内容がわかりやすい周知方法を検討したい。</p>
市村委員	<p>資料を読み、各公民館で多くの講座を実施していることを改めて感じ、努力していることがわかる。ただし、今市民が何を求めているか等を探っていき、講座を展開してもらいたい。</p>
小林(直)委員	<p>家庭教育講座で親子での参加が少ないとの報告があり、昨今の傾向であるような気がする。アラカルト講座は興味があるものに参加するのは当然であり、参加者が増減するのはいたしかたない。</p> <p>南河内公民館の成人講座「ミニコンサート」の参加希望者が少ないように感じられる。今後どのような対応をとるのか。</p>
事務局	<p>このミニコンサートは現在も受付をしており、増える状況である。</p>
田中委員	<p>宇都宮市の講座にも参加していることから、下野市がこのように多くの講座を実施するのは素晴らしい。サイエンス系の子どもたちの参加が少ないのは、そのようなものに興味がなくなっているのではないか。</p>
鈴木委員	<p>興味がないわけではないのではないと思う。市民芸術文化祭で子どもたちの理科研究が展示されていたが、立派な研究がされていた。</p>
早瀬委員	<p>対象を広くして、外国人等の講座を実施してもらいたい。</p>
中川委員長	<p>「学校ってどんどこ」で細谷小学校が0名となっているが、どうしてなのか。</p>

事務局	これは、次年度の入学者の保護者を対象としていることから、内容はどの小学校でも一緒ではあるが、やはり入学予定の小学校で受講したいため、どうしても入学する学校の児童の数によって、増減する。
中川委員長	それではこれで議事を終了する。

5 報告事項

(1) 南河内東公民館に関する吉田地区コミュニティ推進協議会からの要望について

事務局	<p>現在、吉田地区コミュニティ推進協議会から南河内東公民館について、コミュニティセンターとして地域に移行してほしいとの要望書が提出されており、市民協働推進課等と協議をしている。</p> <p>生涯学習文化課としては、現在施設を利用しているサークルが、現在と同じように継続して施設を利用できることを条件に、地域に移行してもよいと考えている。</p>
-----	--

(2) 生涯学習情報センターの機能移転について

事務局	<p>生涯学習情報センターと市民活動センターの区別が市民からは不明瞭であることから、類似する機能を集約することとし、令和7年度から生涯学習情報センターの生涯学習ボランティアバンク機能を市民活動センターに移管すること、学校支援ボランティアバンク機能を生涯学習文化課に移管することで、最終調整を実施している。</p>
-----	--

(3) 公民館の第三日曜日開館について

事務局	<p>令和5年度から要望されている第三日曜日の開館に向けて、令和7年度の予算要求を実施するが、現在の公民館の稼働率等を考慮し、財政状況を鑑みると、現状維持となる可能性がある。</p>
-----	---

6 その他

- (1) 令和6年度公民館まつりについて
実施日程、第1回実行委員会の開催状況を報告
- (2) 第4回公民館運営審議会を開催予定
開催予定12月中旬以降

7 閉会